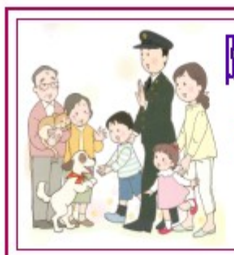


隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

写真で振り返る	自衛隊創設70周年

防衛省・自衛隊は、1959年7月1日に防衛庁・自衛隊として創設されました。爾来、日本防衛の務めを24時間・365日、緊張感をもって果たし続けてまいりました。

今年は70年の節目の年です。

この間、災害派遣任務、国際平和協力活動にも取り組み、各種の改編を経て現在の自衛隊の姿があります。

戦後最も厳しく複雑といわれる現在の安全保障環境、今まさに自衛隊の抜本的な充実・強化が求められています。その70年の歩みを写真で振り返ります。

1959年7月1日
防衛庁・自衛隊が創設。
統合幕僚会議創設　統合幕僚会議議長
（令和6年版防衛白書より）

2007年1月9日
防衛省・自衛隊に移行。
（令和6年版防衛白書より）

1991年
機雷掃海のペルシャ湾派遣部隊
（令和6年版防衛白書より）

1992年　PKO法成立
イラク人道復興支援
（2003年～2009年）
（航空自衛隊Webサイトより）

1995年1月17日
阪神淡路大震災
（令和6年版防衛白書より）

2011年3月11日
東日本大震災
初の統合任務部隊編成
（令和6年版防衛白書より）

2006年3月
統合幕僚監部創設。統合幕僚長
（令和6年版防衛白書より）

2021年8月
在アフガニスタン邦人の輸送
（令和6年版防衛白書より）

1976年
防衛計画の大綱（基盤的防衛力構想）
（昭和52年版防衛白書より）

2022年12月
安全保障3文書策定
（令和5年版防衛白書より）

市ヶ谷（東京都）
新任会長・事務局長等研修会を開催
基盤強化と次世代リーダー育成を目指す

（公社）自衛隊家族会は、県の新任会長や事務局長が参加しました。

研修の主な内容は、自衛隊家族会に関する知識・能力の向上を図るとともに、本部と各県本部との緊密な連携を強化し、組織運営の円滑化を進めることです。

参加者は、（公社）自衛隊家族会の目的や信条、業務運営、財務会計についての説明を受け、家族支援協力や会勢拡大に向けた取り組み、基盤強化施策についても知識を深めました。

質疑応答では貴重な意見交換が行われ、研修会全体を通して活発な議論が交わされました。

今回の研修には兵庫県の高木会長、佐賀県の瑞原会長、新任事務局長として道北の清水事務局長、富山県の野坂事務局長、三重県の森事務局長、熊本県の藤事務局長が出席しました。

本部からは、増田会長、宮下副会長をはじめとする11人の役員が参加し、それぞれの担当分野について説明が行われました。

研修会終了後には意見交換会が開催され、参加者同士の交流が深められ、家族会活動のさらなる発展が期待されています。

研修会風景

東京都
熊谷基地の教育部隊を見学
自衛隊への理解と激励の機会

10月2日、東京都自衛隊家族会（森山尚宣会長）は、東京地方協力本部の支援を受けて、航空自衛隊熊谷基地（基地司令・秋本康雄空将補）の新隊員教育部隊を見学しました。

参加者には、現在教育を受けている隊員の保護者や、初めて基地内を見学する方、そして来春入隊予定者も含まれていました。

見学では、第2教育群で9月から始まった新隊員教育が行われている様子を視察。隊員たちは体力練成や小銃の分解結合の訓練に集中しており、その姿に感銘を受けました。また、営内居室や厨房といった生活施設も見学し、基地の充実した環境を実感しました。

さらに、履修中の空曹予定者たちが訓練の一環として駆け足で基地内を移動する際、直接激励する機会もありました。

実際に、自衛隊の教育や生活の現場を目にし、家族会としての支援の意義を再確認することができ、実り多い見学会となりました。

最後に、熊谷基地の皆さまの丁寧なご対応に心より感謝申し上げます。

（東京都自衛隊家族会
会長　森山　尚宣）

訓練中の隊員を直接激励

大刀洗（福岡県）
芦屋基地で記念フライトを堪能
地本の支援受け実現、航空祭見学

福岡地方協力本部久留米地域事務所の支援を受け、10月5日、小さな田舎町の家族会（会員30人）が航空自衛隊芦屋基地（司令・秋本康雄空将補）の航空祭を見学しました。

この活動には、広報官2人とマイクロバスの支援があり、最年少9歳の男の子から80代の高齢者、ご夫婦なども参加しました。

航空祭では、さまざまな機体が次々と登場し、参加者は大空を飛び交う雄姿に心を奪われました。

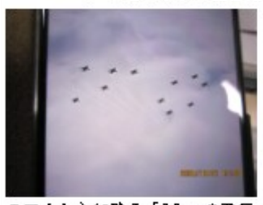
特に、創立70周年を記念した11機による「70」の文字を描く飛行は圧巻で、多くの参加者の心に深く刻まれました。

帰りのバスの中では、「首が痛い」と感じた参加者もいたようですが、それもまた航空祭を存分に楽しんだ証拠かもしれません。

女性広報官2人の親切な支援のおかげで、道に迷うこともなく、素晴らしい一日となりました。この「70」のような支援に心から感謝いたします。

（大刀洗町自衛隊家族会
会長　棚町　文隆
庶務　佐竹　寛文）

T－4をバックに記念撮影



スマホと心に残る「70」の飛行機雲

日田（大分県）
家族会入会説明会を開催
新入隊員家族と現役隊員へ参加を呼びかけ

9月13日、大分市日田（わさだ）地区家族会は、陸上自衛隊大分分屯地（司令・西山義康2等陸佐）にて、新隊員後期教育修了式に合わせ、家族や人事関係隊員を対象とした家族会入会説明会を開催しました。

この説明会は、家族会活動の推進を目的に行われたものです。

4月の地区総会に参加した西山分屯地司令が、自衛隊家族会の活動に深い関心を示され、会員数の減少を懸念したことから、今回の機会が設定されました。

説明会では、家族会パンフレットや「おやばと」、その他の資料を配布し、現状（特に会員数の減少）、活動内容、そして会員としての魅力について説明し、入会を促しました。

今回、初めて現役隊員にも説明を行い、人事関係者を通じて隊員の家族会への理解が深まること、そして多くの新しい入会者が増えることが期待されています。

（大分市日田地区
会長　大城　伸吉）

家族と人事関係隊員を対象に説明会

神奈川県
県家族会、護衛艦「むらさめ」を激励
ソマリア沖・アデン湾への派遣を前に

10月1日、神奈川県自衛隊家族会（中條祐介会長）は、10月5日にソマリア沖・アデン湾に派遣される護衛艦「むらさめ」（艦長・早川正紘2等海佐）を激励するため、公益社団法人自衛隊家族会（増田好平会長）を代表して表敬訪問を行いました。

この訪問では酷暑下での活動に役立つ冷感ボディシートを贈呈し、乗員の皆さまを激励しました。早川艦長の洪川海曹長と先任伍長の横川海曹長からは、全国の支援者やご家族への感謝のビデオメッセージもいただき、神奈川県自衛隊家族会のSNS（二次元コード参照）で紹介しました。

また土官室での懇談では、長期派遣中の職場環境の魅力向上や、乗組員およびその家族への支援策について具体的な取り組みをうかがいました。今回の派遣には昨年入隊した隊員も参加しています。早川艦長は「乗員に寄り添い、モチベーションを維持するよう努める」と語り、洪川先任伍長も「乗員が困った時には遠慮せず相談してほしい」とのメッセージを伝えました。

現在、隊員募集は厳しい状況ですが、護衛艦の任務や家族会の支援を広く伝えることで、艦艇乗組員を目指す方が増えることを期待しています。

（神奈川県自衛隊家族会
副会長　杉田　眞治）

艦上で激励品を贈呈

兵庫県
中部方面隊64周年行事に出席
能登半島水害を踏まえ、規模縮小し開催

10月6日、兵庫県自衛隊家族会（高木清志会長）は晴天の下、陸上自衛隊伊丹駐屯地で行われた「中部方面隊創隊64周年記念行事」にご招待いただき、出席しました。

第3師団管内からは、大阪府家族会の松永会長、奈良県家族会の河本会長、和歌山県家族会の横矢会長をはじめ、近隣地区（伊丹、宝塚、川西猪名川、東神戸など）の会長や役員が多数参加しました。

記念行事は先日発生した能登半島水害への災害派遣対応を踏まえ、一般開放は行われず、規模が大幅に縮小されました。観閲行進、訓練展示、音楽演奏、野外売店などは全て中止され、観閲式とノンアルコールの昼食会（当初は「祝賀会食」との名称）に加え、屋外での自衛隊車両展示のみ行われました。それでも参加隊員は約1000人、招待者は約500人の規模となりました。

今回は、災害発生下での開催という特異な状況の中「隊員募集強化」という絶対的な方針がしっかりと根付いており、中部方面総監・小林弘樹陸将の言葉には、何度もその重要性が強調されていました。昼食会では、中部方面管内の各師団（第3師団、第10師団、第13旅団、第14旅団）ごとにグループ分けされ、各県地方協力本部長が自らの思いを述べました。

招待者や幹部自衛官が次第にステージ前に集まり、県地方協力本部長の話に熱心に耳を傾け、頷く姿が印象的でした。幹部自衛官の皆さんが真剣に「隊員募集強化」に取り組んでいる姿が実感できました。

災害発生下での開催は近年にはない形でしたが、出席者全員の心に深く残る素晴らしい記念行事となりました。

（兵庫県自衛隊家族会
会長　高木　清志）

「隊員募集強化」を強調された小林陸将

兵庫県
自衛官を激励！ 舞鶴オータムフェスタ
多彩な展示で自衛隊をアピール

9月22日、舞鶴北吸係留所で開催された海上自衛隊舞鶴地方隊オータムフェスタ2024に参加し、現場で頑張る海上自衛官および陸上自衛官を激励しました。

9時の開場前、舞鶴は線状降水帯に覆われ、豪雨の中、1時間以上前から開門を待つ長蛇の列ができていました。しかし、開門時には雨が小雨に変わり、イベント中は降り続くものの豪雨は避けられました。

自衛官らはずぶ濡れになりながらも来場者を歓迎し、笑顔を絶やさず素晴らしい対応を見せてくれました。イベントでは、自衛艦の紹介に加え、陸上自衛隊のMCV（16式戦闘機動車）をはじめとする装備品の展示が行われました。また、海上保安庁からも船が紹介され、来場者は多彩な内容を楽しむことができました。

さまざまな装備品展示、体験搭乗、体験航海、クイズなど、多彩な企画に来場者の皆さんは興味津々で、自衛隊を大いにアピールする機会となりました。特に、年少者を含む学生の来場者も多く、自衛隊の未来に多大な期待を抱かせるイベントとなりました。

（兵庫県自衛隊家族会
常任理事　後藤　裕太郎）

隊員と記念撮影する家族会会員

神奈川県
県自衛隊家族会の活動報告
生徒募集説明会でのブース出展

神奈川県自衛隊家族会（中條祐介会長）は、陸上自衛隊高等工科学校の協力を得て、生徒募集説明会場前にブースを設けました。

次年度以降の入校を希望する全国各地からの保護者やお子さま方に、自衛隊家族会の活動をアピールしました。興味を持って話を聞いてくださった方にはパンフレットをお渡しし、家族会について説明を行いました。また、合格を目指す皆さんを激励しました。

「在校生の間は育成会（高等工科学校のPTAのような組織）に参加し、部隊配属後は家族会に入る」という説明をしましたが、育成会の役員の方から「私の住む県では育成会と家族会の両方に入るのが普通です。私も入校と同時に家族会に入りました」とお聞きし、頼もしく感じました。

今後も学校や育成会と連携し、家族会の認知度を高める活動を続けていきたいと思います。来春、入校される隊員は、ぜひ家族会へのご入会をご検討いただければうれしい限りです。

（神奈川県自衛隊家族会
副会長　杉田　眞治）

ブースにて家族会の活動をアピール

埼玉県
令和6年度防衛講演会に参加
「ひげの隊長」防衛政策について語る

10月5日、さいたま共済会館で（公社）自衛隊家族会主催の防衛講演会が開催され「ひげの隊長」こと佐藤正久参議院議員が講師を務めました。準備された約300席は早々に満席となり、参加者の関心の高さが伺えました。

この講演会には、主催者の（公社）自衛隊家族会・増田好平会長、埼玉県自衛隊家族会・瀬須勝位会長のほか、東部方面総監や第1師団長など、近隣の部隊長の方々も出席されました。

講演は、能登半島水害における自衛隊の災害派遣に関する苦労話から始まり、国際情勢やわが国周辺の安全保障環境、防衛費の増額、隊員募集の困難、隊員の処遇改善など多岐にわたる内容が展開されました。

佐藤議員の巧みな話術と分かりやすい映像を駆使したプレゼンテーションにより、参加者は深く引き込まれ、最後まで興味を持って聴講しました。

特に感銘を受けたのは、佐藤議員が「隊員の状況や心情をよく理解し、それを国政に反映している」と述べた点です。安全保障や防衛に関する政策課題は山積しており、元自衛官である佐藤議員の国政における活躍に期待が高まります。一方で、自衛隊家族会の一員として、隊員の処遇改善が今後大きく進展することを切に願っています。

講演後には意見交換会（懇親会）が開催され、佐藤議員をはじめ、自衛隊家族会の関係者や来賓が多数参加しました。佐藤議員は各卓を順に回り、その人柄に触れた参加者は皆、和やかな雰囲気の中で歓談を楽しみました。

（埼玉県自衛隊家族会
会員　小澤　和仁）

最後まで興味深かった講話

編集後記

▽衆議院選挙が終わり、新たな政治情勢を迎えました。今月投開票の米国大統領選挙の結果も踏まえ国内外に変化の秋を迎えそうです。そんな中でも本紙は微々と任務をこなす自衛隊を紹介していきます。▽「写真で振り返る70年」の見出しにフィルムの図案を使ったところ、局員から「今の若い人はフィルムなんて知りませんよ」と言われました。確かにその通りです。ご存知でしょうか？今や映画のデータもネットや衛星回線で届けられる時代です。▽それでも、本紙はネットの届かない場所にもお届けいただいています。会員皆さまのご協力に感謝いたします。